

次の文章は一九八一年に書かれたものである。これを読んで、後の問いに答えよ。

経験が、前頭葉だけのものではなく身体だけのものではなく感情だけのものでもなくて、心身全体で行う物事との交渉である限り、心身一体の胎盤が備わっていないところには経験の育つ余地はまずないと言つてよい。そういうところでは、経験となるべき場合においてさえ、そこから一回きりの衝撃体験だけを受け取ることになるであろう。だとすれば、おとぎ話と隠れん坊、話と遊戯の統合的対応が失われている状態を放置することは取りも直さず経験の消滅を促進することにほかならないであろう。

(藤田省三『精神史的考察』による)

問 傍線①「おとぎ話と隠れん坊、話と遊戯の統合的対応が失われている状態を放置することは取りも直さず経験の消滅を促進することにはならない」とあるが、経験の消滅を促進する理由としてもっとも適当なものを左の中から選び、番号で答えなさい。

- ① ひとつひとつの体験が一回限りの衝撃として、心身によって無秩序に蓄積されていくから。
- ② 前頭葉だけ、または身体や感情だけの経験として、それぞれが個別に蓄積されていくから。
- ③ 心身が一体となった受け入れ態勢ができていないと、経験は蓄積されないから。
- ④ 聞くことと演ずることという通路を通じてしか、経験は心身に蓄積されないから。
- ⑤ 話を聞く際に受け取る韻律の知覚や知的想像、身体感官的な感得がないと経験は蓄積されないから。